

A. 主な動き

1. 内政

- ・10日、ヴォローニン共産党党首は、関税同盟加盟と欧州統合の理念は対立しないとする考えを表明。
- ・12日、サルブ共産党議員は、同党は国民の信頼を失っているとし議会同党会派離脱を宣言、同会派は34名に減少。

2. 外政

▼フィラト首相のカタール訪問

- ・10日、フィラト首相は、カタールを訪問し、ハマド・ビン・ジャシム首相兼外相と会談。両首相は、両国間協力の方向性に関し協議し、フィラト首相は、農業、工業、石油・ガス、観光、教育及び情報技術分野における協力に関心がある旨発言。会談後、両首相は、投資、貿易・経済、領事、観光及びスポーツ分野に関する両国間協定の署名式に臨席。
- ・12日、フィラト首相は、アリ・マフムド国家投資庁長官と会談し、両国貿易・経済関係に関し協議。同日、同首相は、カタール教育・科学・社会発展財団等を訪問。

▼フィラト首相のベルギー訪問

- ・13日、フィラト首相は、ブリュッセルにおいてアシュトンEU外務・安全保障政策上級代表と会談し、モルドバの欧州統合プロセスの進展状況及び沿ドニエストル問題に関し協議。アシュトン上級代表は、モルドバの義務履行状況を評価し、モルドバに対する支援の継続及び来春にモルドバを訪問する

意向を表明。会談後、両者は、EU危機管理部隊への参加に関するEU・モルドバ包括協定に署名。

- ・13日、フィラト首相は、マルムストローム内務担当欧州委員と会談し、欧州人民党大会に出席。

3. 沿ドニエストル

- ・8日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、ウクライナがOSCE議長国となる2013年は沿ドニエストル紛争解決に関する交渉は大きな成果が期待できる旨発言。
- ・10日、ラヴロフ露外相は、露は沿ドニエストル地域内に露総領事館及び文化センターを開設する意向である旨発言。11日、チェチェフ地域党最高会議会派第一副代表は、ウクライナは領事館開設問題には介入しない旨発言。

4. 二国間関係

- ・14日、坂田大使は、キシナウにおいてフィラト首相と会談し、両国間協力関係、2013年3月の同首相の訪日の可能性、日本へのモルドバ代表部開設問題等に関し協議。
- ・14日、坂田大使は、キシナウにおいて平成23年度対モルドバ草の根・人間の安全保障無償資金協力「キシナウ市立小児感染症病院における医療機材整備計画」引渡式を実施（ウサトウ保健相も出席）。全国の小児患者を受け入れる同病院の医療環境改善のため、超音波診断装置等合計約8万7千ドル相当を供与。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)